

# かけはし



尾張旭市立三郷小学校 第7号 平成30年11月8日(木)

## 『あいさつ』をする習慣！！

校長 井田 寿

「あいさつ運動をやってみて、どう思いましたか？」  
「あいさつする人が、少しずつ増えていくのを実感しました。」  
「あいさつを返されると、どういう気持ちになりましたか？」  
「心が温まり、とてもうれしく思いました。」  
「あいさつをしても返してくれない子がいて、どんな気持ちになりましたか？」  
「悲しいです。もっとあいさつの楽しさを伝えていけたらと思います。」



【学校集会にて】

「あいさつ運動が終わると、なぜかあいさつが少なくなり習慣化されません。なぜだと思いますか？」

「みずからあいさつをすることが恥ずかしくて、人から先に言ってもらわないとやりにくいのだと思います。」

上の問答は、11月5日(月)学校集会で、私と児童会役員とのやりとりです。以前に保護者や地域の方々から、三郷小学校の子どもたちは、あいさつ運動ではきちんと「おはようございます」が言えるのに、日頃は「元気なあいさつ」が少ないという意見をいただいています。本校では『あいさつ』はすべての生活の基本としてくり返し指導していますが、なかなか定着しない現状です。小学生が『あいさつ』をしない理由はどんなことなのか、子どもたちに聞きました。「恥ずかしいから」「自分と関係ないから」「相手を警戒しているから」「めんどくさいから」そして、もう一つの理由として「まわりの大人があいさつをしないから」というのもありました。あいさつ運動の取り組みが、しつけレベルの指導になっていることを痛感しています。だから、あいさつ運動の取り組みが終わったら元に戻ってしまうのだと思います。

テレビやゲームなど一方通行のコミュニケーション、核家族中心のコミュニケーションが『あいさつ』の少ない環境をつくり出していると思います。だからこそ、『あいさつ』を小学生の段階で身に付けることが重要です。そんな状況の中、現在6年生が正門や昇降口、廊下などで、率先して元気のよい『あいさつ』をしています。少しずつですが、毎日『あいさつ』をできる子が増えてきています。『あいさつ』は、一つの学年だけの取り組みでは上手くいきません。学校全体で、さらに家庭や地域と連携して行わないと定着しにくいと思います。定着させていくために、これからも本校では明るく元気な『あいさつ』ができるようくり返し指導していきます。家庭や地域でのご指導もよろしく願いいたします。



**元気よく『おはようございます！』**